

【小学校の部】 最優秀賞 (大分県教育の日推進会議会長賞)

私が住む飯田の宝石

九重町立飯田小学校 6年

矢方 日悠



みなさんは、「自然」といえばどんなことを思い浮かべますか。

私は、九重町の飯田高原という、自然豊かなところに住んでいます。飯田高原には「タデ原湿原」というラムサール条約に登録され、国立公園にも指定されているすてきな場所があります。花、木、草、虫、動物、たくさんの生き物が住んでいる場所です。

私が通う飯田小学校では、3年生の頃からタデ原湿原について学びます。私は生まれたときからたくさんの自然に囲まれていたので、自然が身の回りには当たり前だと思っていました。しかし、タデ原湿原について学んでいくにつれ、この自然は当たり前ではないということに気づきました。飯田小学校では、6年前から6年生が九重町を訪れる観光客の方に、タデ原湿原を紹介するキッズガイドに取り組んでいます。私たちも、このすてきなタデ原湿原についてもっと多くの人に知ってほしいと思い、キッズガイドをすることにしました。

私は湿原に咲く「クララ」という花についてガイドしたいと思いました。理由は、花の名前の由来がおもしろいからです。クララと聞くと、「アルプスの少女ハイジ」に出てくる「クララ」を思い浮かべますが、正しい由来は、この草の根をかむとクラクラするからです。この草の根は目がくらむほど苦いため、漢字では「眩草」や「苦参」と書くそうです。

ガイドをするのは楽しみだったけれど、タデ原湿原の魅力を分かりやすく伝えるにはどうしたらいいか。どんな説明をしたらお客さんに楽しんでもらえるか悩みました。そんなときに、私たちにガイドの仕方を教えてくれた赤峰さんのことを思い出しました。赤峰さんは、「この花の名前はなんでクララだと思う？」など、私たちといろんなやり取りをしながら教えてくれました。また、「ガイドをするときには、自分が楽しむことが一番。」とも言っていました。その言葉を参考に、クイズを入れたガイドをしようと思いました。

キッズガイドは2回計画し、いよいよ1回目のキッズガイドの日になりました。初めてだったのでとても緊張しました。けれど、最初のお客さんがとても優しくガイドを聞いてくれて、緊張がやわらぎました。だんだん自分から声をかけられるようになり、たくさんの人にガイドをすることができました。ときには、「ガイドをしてもらってもいいですか。」と言ってくれるお客さんもいて、とてもうれしかったです。

2回目のキッズガイドでは、1回目の反省点「笑顔で話す」ことに気をつけました。声をかけるときから笑顔を意識し、お客さんの顔を見ながらガイドをしました。すると、お客さんも笑顔で聞いてくれたり、「クララはどこにありますか?」「クララの場所まで案内してください。」と言ってくれたり、たくさんのコミュニケーションが取れました。移動する途中にある花の説明もすると、「くわしくてすごいね!」と言ってくれてとてもうれしく、笑顔になりました。

私はキッズガイドをして、うれしいことが数えきれないくらいありました。ガイドをしているとたくさんの方がほめてくれました。「暑いのにがんばってるね。」「聞きやすかったよ。」などガイドのことをほめてもらい、とてもうれしかったです。でも、私が何よりうれしかったのは、お客さんが楽しんでくれたことです。クイズを一生懸命答えてくれたり、自然に興味を持ってくれたりしました。キッズガイドを通して、たくさんの人に楽しみながらタデ原湿原のことを知ってもらうことができ、ガイドをして本当に良かったです。

私はこれからも、日曜日に「自然を守る会」の方々がしているガイドに参加してみるなど、飯田にあるこの美しい、すてきな自然をたくさんの人に知ってもらい、これからも大切に守っていきたくです。